

証券コード
6267

ゼネラルパッカー通信

Investors' Guide

2022年7月期(第61期)

2021.08.01→2022.07.31

世界の品質を”包装”で守る



包装システムのトータルプランナー


ゼネラルパッカー株式会社

社 是 創造と挑戦 ―感ずる、信ずる、行動する―

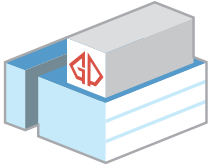
経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。

GOTグループ



当社



包装機械


各種自動包装機械及び
周辺装置の製造・販売

- ・当社主力の包装技術
- ・ガス充填包装
- ・チャック付
スタンドパウチ包装

生産機械

食品製菓機械の
製造・販売


オサ機械
株式会社



Since 1932
OSA

当社グループのお客様

工場



主要ユーザー

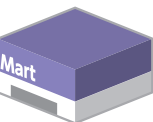
食品分野

医薬品分野

化学分野

その他

店舗




食品分野

化学分野

その他

病院



スーパーマーケット
・コンビニエンスストア
・ドラッグストア
・ホームセンター等

キャンディ
パン粉
花かつお
ふりかけ

ナッツ類
小麦粉
お茶
かち割り氷

お米・米菓
ドリップコーヒー
チョコレート
健康食品

粉末洗剤
肥料

ペットフード
野菜・花の種

輸液パック
カテーテル
粉末薬品

魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち1/3が開発部及び技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア

小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。また、オサ機械はチョコレート製造機械分野でトップシェア。

魅力4 新規分野・海外分野への成長

新規分野の開拓による事業領域の拡大と海外マーケットでの成長を続けています。

魅力5 安定した株主還元

DOE2%以上の安定配当を続けています。

▶P4へ



5期連続の増益で利益項目は
過去最高を更新。
国内市場での安定的な収益の確保と、
グローバル市場での
売上高比率40%以上の実現
を目指します。

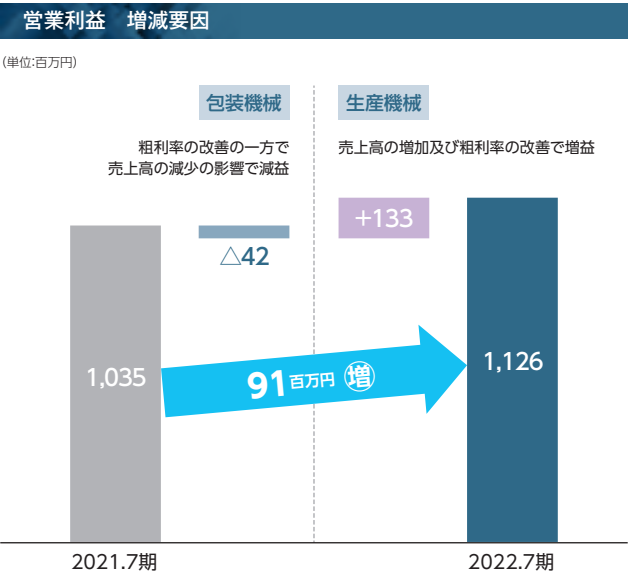
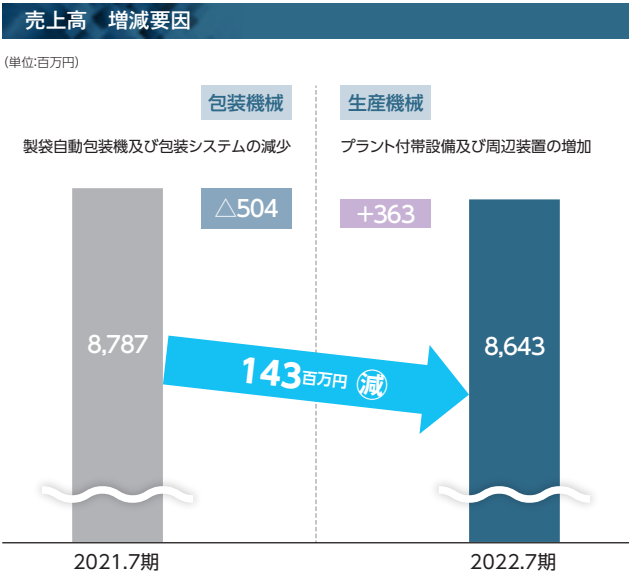
株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに当社第61期(2021年8月1日から2022年7月31日まで)の営業状況をご報告させていただきます。
ご一読の上、当社事業へのご理解とともに、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **牧野 研二**

業界動向と当社販売推移

まずは、当社の主力事業であります「包装機械事業」と「生産機械事業」の事業環境と販売推移についてご説明いたします。
包装機械事業の業界動向は、経済産業省の「生産動態統計」によりますと、当社が位置づけられている、製袋充填機の生産額は、直近の2022年7月期上期も、2021年7月期下期に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響から回復基調にあり、前年同期比118.3%と増加しております。なお、当社売上高については、国内市場における売上高が減少した影響により、前年

同期比89.1%と減少しております。
生産機械事業の業界動向は、経済産業省の「生産動態統計」では、当社が位置づけられている、製パン・製菓機械の生産額は、直近の2022年7月期上期の生産額が前年同期の97.2%と減少しています。こちらは新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続いているものと思われます。当社の生産機械事業につきましては前年同期比305.1%と大きく増加しています。これは、前年同期である2021年7月期上期の販売が低調であったことに対して、2022年7月期上期は大型プラントを中心に販売が好調であったことによる増加であります。



2022年7月期の決算概況

2022年7月期決算は、売上高8,643百万円（前期比1.6%減）、営業利益1,126百万円（前期比8.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益778百万円（前期比5.1%増）となり、売上高は前期実績を下回ったものの、売上総利益から親会社株主に帰属する当期純利益まですべての利益項目で、過去最高だった前期実績を更新し5期連続の増益となりました。

売上高増加の主な要因としましては、包装機械事業では、メカトロハイスペック包装機を中心とした給袋自動包装機の販売実績は前期を上回ったものの、製袋自動包装機及び包装システムの販売実績が減少したことに伴い、504百万円の減収となりました。生産機械事業では、プラント付帯設備や周辺装置の販売実績が増加したことに伴い363百万円の増収となりました。

営業利益の主な要因としましては、包装機械事業では、粗利率は改善している一方で売上高が減少した影響により、42百万円の減益となりました。生産機械事業では、売上高の増加に加え、粗利率が改善したことにより133百万円の増益となりました。

第6次中期経営計画の2年目の成果

前期からはじまった第6次中期経営計画（2021年7月期～2023年7月期）では「さらなる躍進に向けグローバル展開の拡大を目指す」を基本戦略としております。「顧客ニーズへの対応力強化と課題解決型営業の実践」を販売戦略の中心として、国内市場では包装機械・生産機械の事業連携により安定的な収益と成長を確保しつつ、安全・安心、環境配慮への対応を意識し、新規分野への進出、グローバル市場でのアライアンス強化、3極販売体制の確立に向けて取り組んでいます。

2022年7月期の実績は、国内市場において包装機械事業では、製袋自動包装機及び包装システムの販売実績が減少したことに加え、主力機であるメカトロハイスペック包装機を中心とした給袋自動包装機の販売実績も減少した影響により売上高は前期を下回る結果となりました。生産機械事業では、プラント付帯設備や周辺装置の販売実績が増加したことで前期から増収となっております。

グローバル市場においては、第6次中期経営計画では、グロー

バル市場の売上高比率40%以上を目指しております。2022年7月期下期は実績が31.3%となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあるものの、受注高は増加しており、引き続きグローバル市場の売上拡大に向け取り組んでまいります。

第62期の見通し

2023年7月期の業績見通しについては、売上高9,250百万円（前期比7.0%増）、営業利益925百万円（前期比17.9%減）、経常利益930百万円（前期比18.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益620百万円（前期比20.4%減）を予想しています。原材料・エネルギー価格及び物流費の高騰による企業収益の悪化や、円安の進行による物価上昇に伴う消費マインドの低下が懸念されるなど、景気の先行きは厳しい状況となることを見込まれます。このような状況の中、当社の売上高につきましては受注残高が前年から増加していることに加え、国内外での積極的な販売活動の展開による受注確保を計画していることから、前期から増収を見込んでおります。利益については、原材料価格及び

物流費の高騰等の影響による売上総利益率の低下、海外での展示会出展や国内外の顧客への訪問活動増加による販売費及び一般管理費の増加を想定していることから前期から減益を見込んでおります。

株主様へのメッセージ

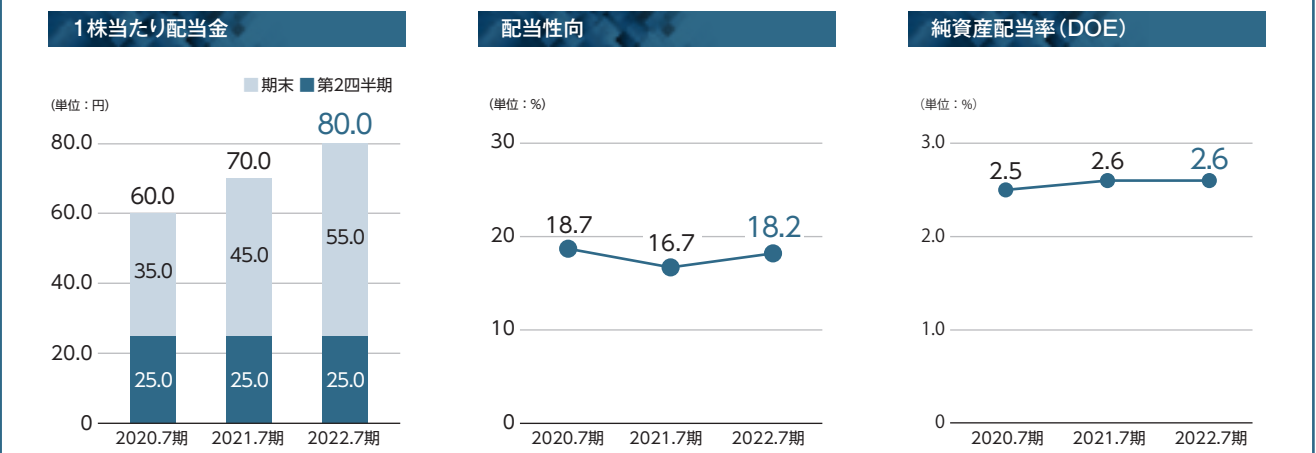
2022年7月期の配当金につきましては、2022年7月期連結業績を踏まえまして、期末配当を直近の配当予想1株当たり45円から55円に増額することにいたしました。中間配当金1株当たり25円と合わせまして年間配当金は1株当たり80円となります。

当社は食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性の維持・向上に努めていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、連結配当性向30%または連結純資産配当率(DOE)2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。



本社南側に新しい工場が完成しました。

新工場の概要

所 在 地：愛知県北名古屋市宇福寺神明107番地
 建築面積：895.93㎡
 延床面積：2,164.10㎡
 竣 工：2022年7月



外観(北西面)

当社は、本社南側に隣接する建物に新工場を増築し、2022年7月に竣工いたしました。包装機械業界におきましては、お客様のニーズは多様化且つ高度化しており、近年では機械の大型化も進んでおります。

そのような中で生産能力の向上を図るべく新たに工場を建設したことで、機械の組立・調整スペースが約55%拡大するとともに、大型の機械の生産にも効率的に対応できるようになりました。

今後もより良い製品の生産に取り組み、業績の向上に繋げてまいります。



工場内観



工場内観(2階より撮影)

FOOMA JAPAN 2022に出展いたしました！



ハイスpek次世代包装機 GP-X5

2022年6月6日から9日まで、食品製造の大規模総合展「FOOMA JAPAN 2022 (国際食品工業展)」が東京ビッグサイトにて開催されました。

当社とグループ会社のオサ機械株式会社が共同で出展し、ハイスpek次世代包装機GP-X5、チョコレート用高速ワンショットデポジッタ等の製品を出展いたしました。

これらの製品を用いた最適なソリューションを提供することで、お客様が抱える課題の解決に貢献してまいります。

第1回FOOMAアワード2022審査委員会賞を受賞

高速ワンショットデポジッタが第1回FOOMAアワード2022審査委員会賞を受賞

この度、一般社団法人日本食品機械工業主催の「第1回FOOMAアワード2022」において、オサ機械株式会社の高速ワンショットデポジッタが審査委員会賞を受賞いたしました。



「FOOMAアワード」は、食品機械の技術研究・開発の促進およびその技術の普及を図るために、優秀な食品機械・装置を広く食品産業界に周知、これを機に食品産業界における生産性向上、省人化等の課題解決、新たな食品開発に貢献し、ひいては食文化並びに食品安全の一層の向上に資することを目的に創設され、食品製造機械・装置等を表彰するものです。



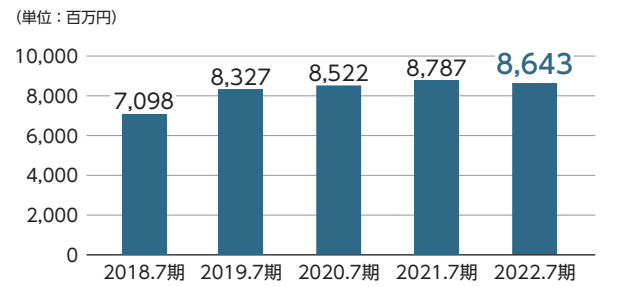
チョコレート用
高速ワンショットデポジッタ

経営成績に関する定性的情報

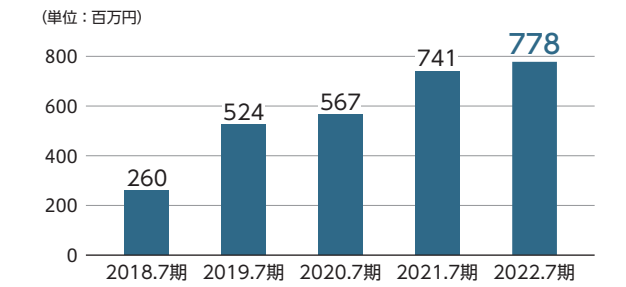
当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限の段階的緩和により、景気は緩やかに持ち直しの動きが見られたものの、世界的な半導体不足やロシアによるウクライナ侵攻に伴う資源価格の高騰に急激な円安の進行が重なるなど、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは「連結グループの安定成長基盤整備の時期」と位置づけた第6次中期経営計画（2021年7月期～2023年7月期）で掲げた基本戦略の一層の推進を図るべく、グローバル展開加速に向けた販売体制の確立とグループ会社間の事業連携強化を重要課題として、取り組みを強化してまいりました。

売上高



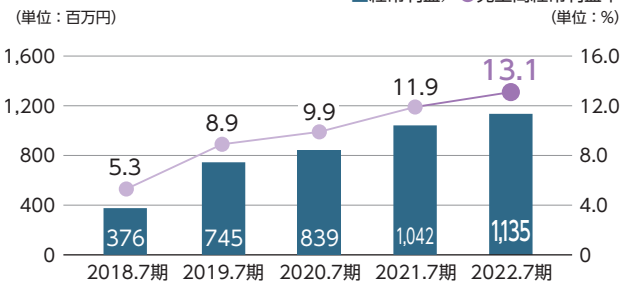
親会社株主に帰属する当期純利益



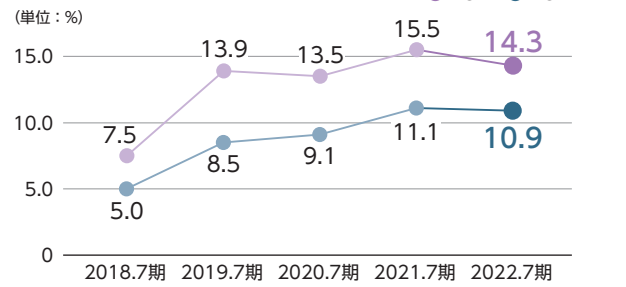
当連結会計年度における売上高は、生産機械事業においては増収となったものの、包装機械事業における製袋自動包装機及び包装システムの販売実績の減少などが影響し、前連結会計年度に比べ143百万円の減収となりました。一方で利益につきましては、生産機械事業における増収効果やグループ全体での売上総利益率の改善により、売上総利益が前連結会計年度を上回ったことなどから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも前連結会計年度に比べ増益となり、過去最高益を達成いたしました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。
包装機械事業は、売上高は7,549百万円、営業利益は1,049百万円となりました。また、生産機械事業は、売上高は1,101百万円、営業利益は75百万円となりました。

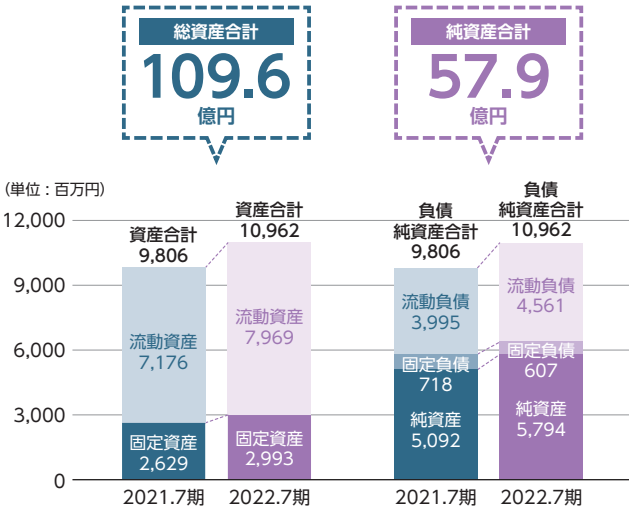
経常利益／売上高経常利益率



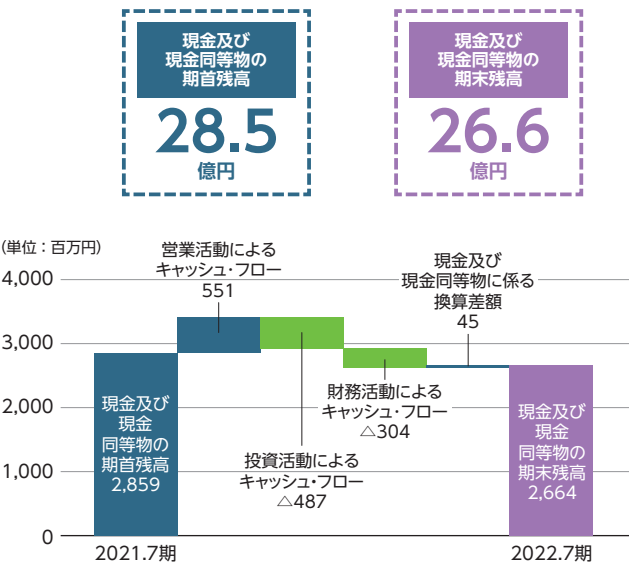
ROE／ROA



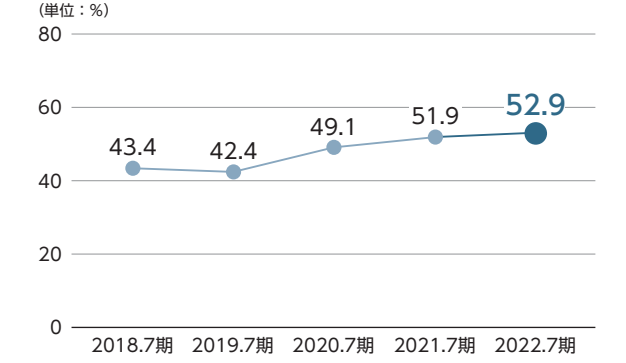
財務状況



キャッシュ・フローの推移



自己資本比率



財務分析

当連結会計年度における資産合計が増加した主な要因は、現金及び預金195百万円減少したものの、棚卸資産が609百万円、有形固定資産が446百万円増加したことであります。負債合計が増加した主な要因は、借入金183百万円、未払法人税等が71百万円、それぞれ減少したものの、前受金が765百万円増加したことであります。純資産合計が増加した主な要因は、利益剰余金653百万円の増加であります。

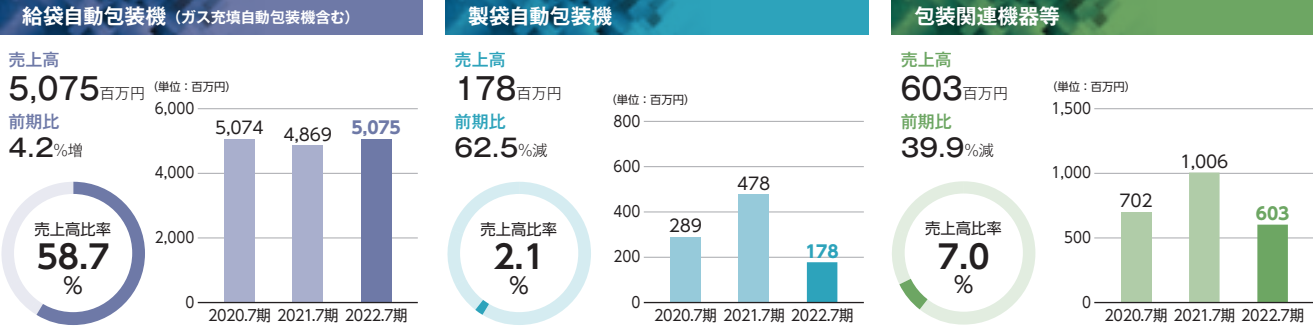
キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果得られた資金は551百万円（前期比61.9%減）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,135百万円、前受金の増加額752百万円等であり、支出の主な内訳は、棚卸資産の増加額600百万円、法人税等の支払額424百万円、売上債権の増加額265百万円であります。投資活動の結果使用した資金は487百万円（前期比655.6%増）となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出478百万円、無形固定資産の取得による支出3百万円であります。財務活動の結果使用した資金は304百万円（前期比42.7%増）となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額125百万円、短期借入金の純減額100百万円、長期借入金の返済による支出83百万円であります。

包装機械

包装機械事業におきましては、メカトロハイスペック包装機を中心とした給袋自動包装機の販売実績は前期を上回ったものの、製袋自動包装機及び包装システムの販売実績が減少した影響により、売上高は7,549百万円(前期比6.3%減)、営業利益は1,049百万円(前期比3.9%減)となりました。





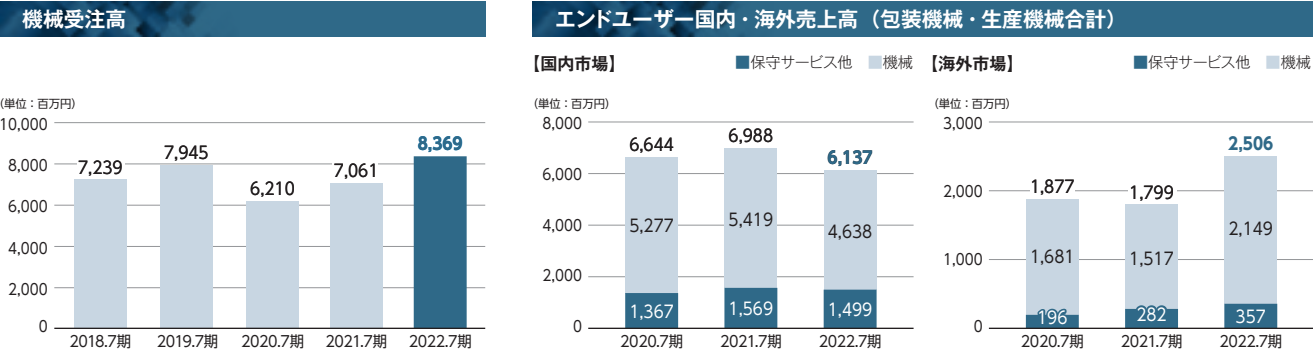
生産機械

生産機械事業におきましては、プラント付帯設備や周辺装置の販売実績が増加したことに伴い、売上高は1,101百万円(前期比49.3%増)、営業利益は75百万円(前期は営業損失57百万円)となりました。



売上高
1,101百万円
前期比 49.3%増

売上高比率 12.7%

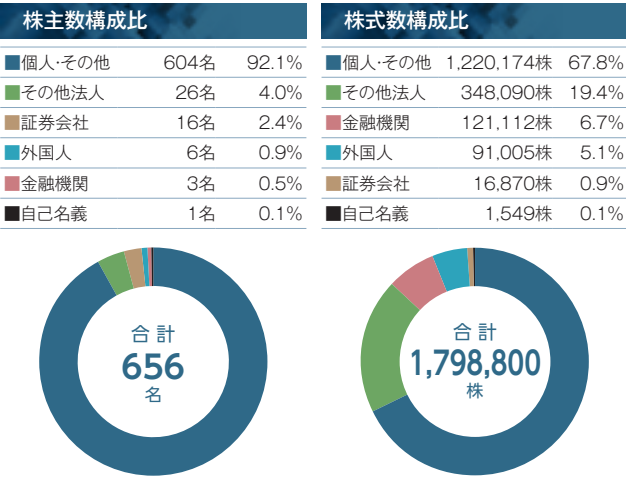


会社概要		
商 号	ゼネラルパッカー株式会社	
英 文 社 名	GENERAL PACKER CO., LTD.	
設 立	1961年12月	
資 本 金	2億5,157万7千円	
事 業 内 容	各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売、 食品製菓機械の製造・販売	
従 業 員 数	198名(連結) 162名(単体)	
本 社 ・ 工 場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222	
東 京 営 業 部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-8 KDX神田北口ビル4F Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893	
子 会 社	オサ機械株式会社 蘇州日技通用包装机械有限公司 General Packer America Corporation	
関 連 会 社	錦通日技包装科技(江蘇)有限公司	

(2022年7月31日現在)

役員		
代表取締役社長	牧野 研二	オサ機械(株) 代表取締役
取締役	水野 智之	
取締役	安藤 正行	オサ機械(株) 取締役
取締役	塚本 真也	オサ機械(株) 代表取締役社長
取締役	杉田 篤紀	オサ機械(株) 監査役
社外取締役(監査等委員)	福井 義雄	
社外取締役(監査等委員)	村橋 泰志	
社外取締役(監査等委員)	浅井 一郎	
社外取締役(監査等委員)	森田 卓寿	
取締役(監査等委員)	小関 幸太郎	オサ機械(株) 監査役
(2022年10月21日現在)		

株式の状況		
発行可能株式総数	5,600,000株	
発行済株式総数	1,798,800株	
株主数	656名	
(2022年7月31日現在)		
大株主		
株主名	持株数（株）	議決権比率（％）
株式会社FAMS	270,000	15.03
ゼネラルパッカー従業員持株会	235,000	13.08
MSIP CLIENT SECURITIES	83,300	4.63
ゼネラルパッカー取引先持株会	79,700	4.43
株式会社りそな銀行	78,400	4.36
高野 季久美	72,900	4.05
田中 かな	71,200	3.96
梅森 輝信	53,700	2.99
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	41,512	2.31
島末 孝法	39,200	2.18
(2022年7月31日現在)		



IRサイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

▼トップページ



▼IRページ



企業ホームページ
最優秀サイト
2021
日興アイ・アール
新興市場ランキング

11年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR情報などをご覧ください。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

個人投資家の皆様へ

業務内容や特徴、業界情報、配当についてわかりやすく解説しています。

<https://www.general-packer.co.jp/ir/>

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	https://www.general-packer.co.jp/

各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構(ほふり)をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構(ほふり)をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

包装システムのトータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社

本社・工場 〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222

東京営業部 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8
KDX神田北口ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

